

子育て支援の託児・ベビーマッサージを通して得た学生の学び(第2報)

三輪聖子, 木澤光子

生活科学科生活科学専攻

(2012年9月20日受講)

Student learning is acquired through Child care and Baby massage is done in Parenting support (No. 2)

Department of Home and Life Science, Major in Home and Life Science,
Gifu Women's University, 80 Taromaru, Gifu, Japan (〒501-2592)

MIWA Satoko, KIZAWA Mitsuko

(Received September 20, 2012)

1. はじめに

岐阜女子大学生生活科学専攻では、子育て支援活動を2005年から実施し、今年で8年目を迎え毎年支援内容を拡大してきている。今年度から子育て支援活動名を「ママパパアゴラ」と改称し、新たに「読み聞かせパーティー」として絵本の読み聞かせを加えた。本子育て支援活動実施の目的は、岐阜女子大学紀要第41号「子育て支援の託児・ベビーマッサージを通して得た学生の学び」に掲載している。

本報告は、第2報として、2011年度、2012年度の活動から得た調査データを加えたものである。

2. 方法

(1) 調査対象・方法

調査対象者は、本学生生活科学専攻2010年度卒業生16人、2011年度卒業生17人、2012年度4年生13人である。2010年度卒業生16人のうち保育士資格取得者は14人、2011年度卒業生17人のうち保育士資格取得者は14

人、2012年度4年生13人のうち保育士資格取得見込みの学生は12人である。

調査方法は、2010年度卒業生は支援活動がすべて終了した後、アンケート調査を自記式質問紙法で実施した。2011年度卒業生と2012年度4年生は子育て支援のベビーマッサージ、赤ちゃん離乳食・ママ・パパサロンの託児が1回終了するごとに、アンケート調査を実施し、さらに印象に残ったことや学んだことを自由記述で尋ねた。

(2) 分析方法

託児に関しては、託児回数と子どもに関すること12項目（「心地よい抱き方」「個性の把握」「泣く・ぐずる内面の理解」「生活リズムの理解（おむつ交換）」「生活リズムの理解（睡眠）」「安心感のある環境づくり」「運動発達の実際」「ことばのやりとり」「手先の器用さ、身体全体の動きの観察」「遊びにかかわる（音・歌）」「遊びにかかわる（ままごと・玩具）」）の理解度とをクロス集計し、子どもと触れあう頻度と理解度の関係を分析した。

ベビーマッサージに関しては、ベビーマッ

サージへの関心度と子どもに関することやベビーマッサージの効果について13項目(「コミュニケーションの取り方」「人見知り、後追い」「月齢と成長過程」「首のすわり」「寝返り」「お座り、はいはい、立つ」「泣き声や表と親の対応」「抱き方」「おむつの替え方」「飲み物を与える」「夜泣き、ストレス発散」「情緒安定効果」「身体的健康の効果」)の理解度とをクロス集計し、ベビーマッサージへの関心度と理解度の関係进行分析した。集計・分析はSPSS13を使用した。

3. 結果と考察

(1) 託児回数と子どもに対する理解度

「心地よい抱き方」は、図1に示すように回数が増えるに従って「とてもよく理解できる」が増加した。回数に関係なく「まあまあ理解できる」が最も多く、託児では、乳幼児を抱くという行為は必ず行っており、回数によってあまり差が現れなかった。

図2「個性の把握」は、2回・3回について「まあまあ理解できる」が、70%を超えていたが、4回・5回になると「とてもよく理解できる」が高くなった。

図3「泣く・ぐずる内面の理解」では、「個性の把握」と4回までは同様であったが、5回では「まあまあ理解できる」と「とてもよく理解できる」が同じ割合であった。

図4「生活リズムの理解(おむつ交換)」も理解できないと回答した人は5回目には誰もいなくなった。回数を重ねるごとに「とてもよく理解できる」と回答した人が増加した。

図5「生活リズムの理解(睡眠)」は、「まあまあ理解できる」と回答した人の割合が回数の増加とともに高くなった。

図6「おむつを換えること」は、4回まで「ほとんど理解できない」が60%近くを占めて

いたが、5回になると誰もいなくなり、「とても理解できる」「まあまあ理解できる」が高くなった。

図7「安心感のある環境づくり」は、理解できないという回答はなく、回数が増加するにつれて「とても理解できる」が増加した。

図8「運動発達の実際」は、「まあまあ理解できる」が回数に関係なく70%前後を占めた。

図9「ことばのやりとり」、図10「手先の器用さ、身体全体の動きの観察」、図11「遊びにかかわる(音・歌)」, 図12「遊びにかかわる(まもごと・玩具)」では、同じ様な傾向を示した。4回目までは回数が増えるにつれ、「とてもよく理解できる」が増加し、図9のこことと図12の遊び(玩具)は71.4%, 図10の動きの観察と図11遊び(音・歌)は57.1%であった。しかし、5回目はどれも25%と減少し、「まあまあ理解できる」が75%と増加した。

以上の結果から、託児の回数が増加するにつれて理解度は高くなっていくことが明らかになった。ただ、内容によっては5回目が「とてもよく理解できる」ではなく「まあまあ理解できる」が高くなったものもあった。託児に来る子どもやその時の状況によって理解度の程度が変わったと考えられる。しかし、概ね経験回数と理解度は正の相関があると考えられる。

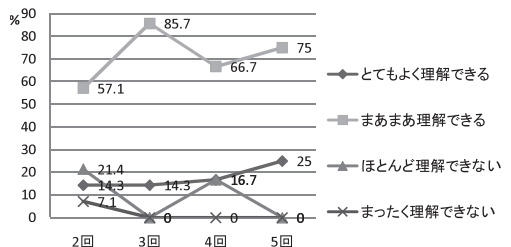


図1 心地よい抱き方

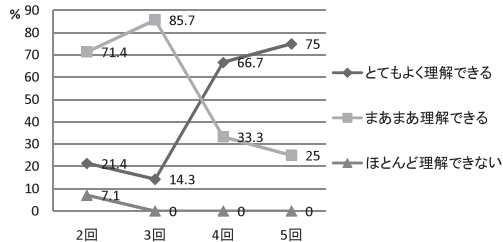


図2 個性の把握

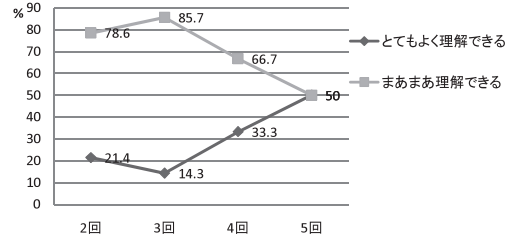


図7 安心感のある環境づくり

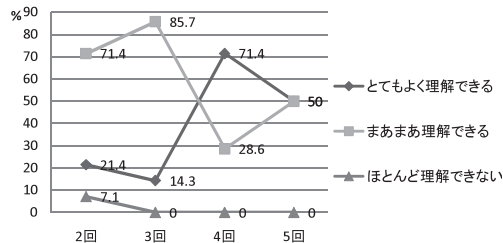


図3 泣く・ぐずる

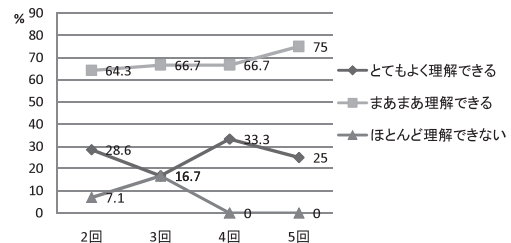


図8 運動発達の実際

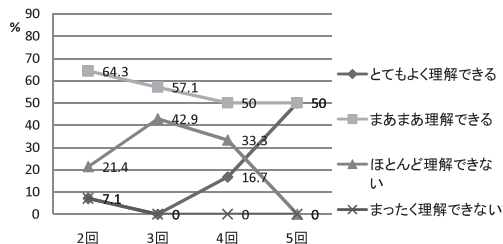


図4 生活リズムの理解（おもむき交換）

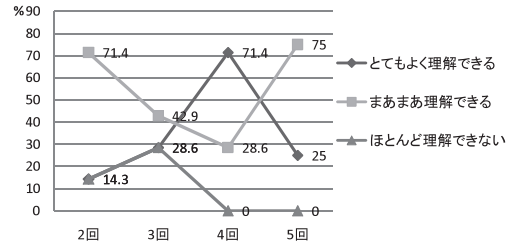


図9 ことばのやりとり

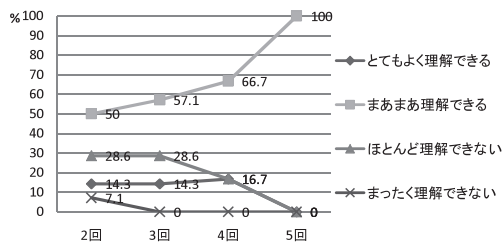


図5 生活リズムの理解（睡眠）

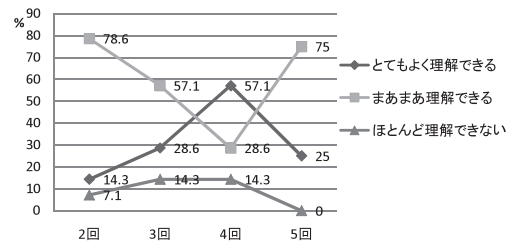


図10 動きの観察

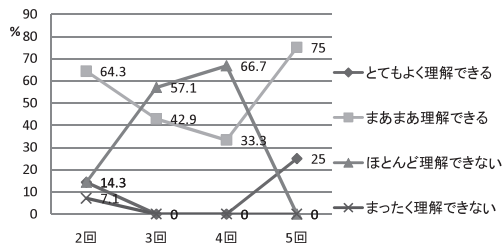


図6 おもむきを換えること

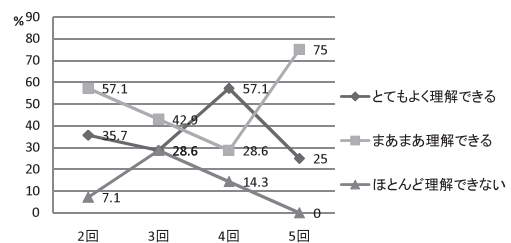


図11 遊びにかかわる（音・歌）

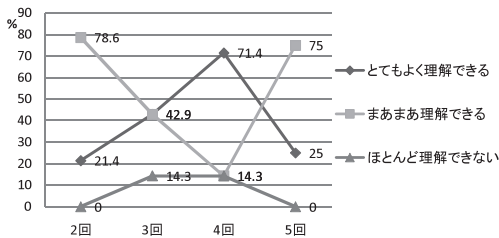


図12 遊びにかかわる (ままごと・玩具)

(2) ベビーマッサージへの関心度と子どもに対するベビーマッサージ効果への理解度
ベビーマッサージは、母親が1歳未満の乳児に対してベビーマッサージをおこなう横に寄り添って、学生も赤ちゃん人形を使用し一緒にベビーマッサージをおこなう活動である。乳児の様子や母親の言葉がけなど、親子のかかわりを観察し母親に対して質問なども行うことができる。ベビーマッサージ終了後、抱っこさせてもらったりおむつ換えを観察したりする。参加終了後、アンケート調査を実施した。

今回は、ベビーマッサージに対する学生の関心度(「非常に高い」「やや高い」「やや低い」「非常に低い」)を4段階で尋ねた結果と子どもに対するベビーマッサージ効果への理解度(13項目)とをクロス集計した。関心度は、すべての学生が「非常に高い」と「やや高い」で占められており、「低い」と答えた学生はいなかった。

図13「コミュニケーションのとり方」は、関心が「やや高い」人に比べ「非常に高い」人の方が、「とてもよく理解できる」割合が高くなった。 X^2 検定の結果、 $P<0.05$ で有意差が認められた。

図14「人見知り、後追い」、図15「月齢と成長過程」、図16「首のすわり」は、同様の傾向がみられた。「やや高い」人は、「まあまあ理解できる」が60%程度を示しており、「非常に高い」人は、「とてもよく理解できる」

が38.5%であった。関心の高い人の方が、理解度も高くなっていた。

図17「寝返り」では、関心の「非常に高い」人が「とてもよく理解している」と回答している割合は61.5%と非常に高かった。また関心の「やや高い」人の「ほとんど理解できない」と回答している人の割合は24%と比較的多いと考えられる。 X^2 検定の結果、 $P<0.01$ で有意差が認められた。

図18「お座り、ハイハイ、立つ」について、関心が「非常に高い」人は、「とてもよく理解している」と回答した人が半数以上を占めていた。

図19「泣き方や表情と親の対応」については関心度に関係なく、「とてもよく理解できる」と「まあまあ理解できる」が半数ずつを占めていた。

図20「抱き方」も関心度の差はあまりなく「まあまあ理解できる」と回答した人が60%程度を占めていた。

図21「おむつの換え方」は、「ほとんど理解できない」が他の項目よりも多くなっていた。実際に換えているところを見ることが少なかったと考えられる。図22「飲み物を与える」も同様の傾向を示していた。

図23「夜泣き、ストレス発散」効果はその状況を見ることがないので、関心の「やや高い」人は、「ほとんど理解できない」56%、「まったく理解できない」8%と64%が、理解できないと回答していた。

図24「情緒安定効果」、図25「身体的健康の効果」は、関心度が高い人ほど「とてもよく理解できる」と回答した人の割合は高くなっているものの、関心度にかかわらず「ほとんど理解できていない」「まったく理解できていない」と回答する人が存在していた。やはり、直接見たり感じたりすることが少ないからだと考えられる。

以上の結果から、ベビーマッサージへの関心度と子どもに対するベビーマッサージ効果への理解度は、程度の差はあるものの、ほぼどの項目も関心度の高い人の方が、理解度は増していくことが分かった。特に、目前で観察できる親子の様子や乳児の様子は特に理解度が高くなっていた。「夜泣き、ストレス発散」といった見ることのできない項目は、理解できないと回答した人が多くなった。実際、体験や観察できることは、理解度も高くなる。

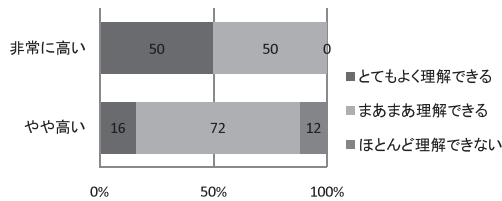


図13 コミュニケーションのとり方

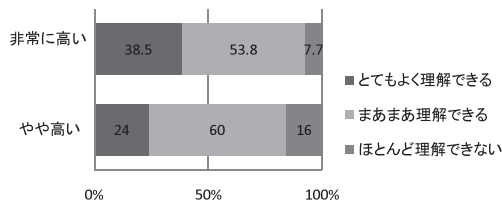


図14 人見知り、後追い

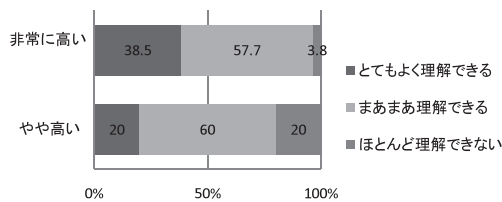


図15 月齢と成長過程

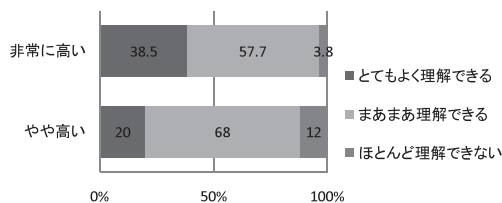


図16 首のすわり

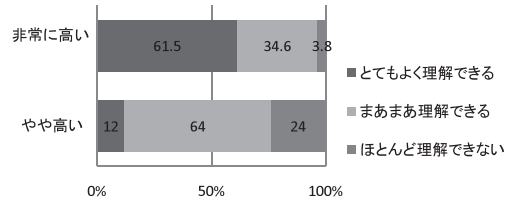


図17 寝返り

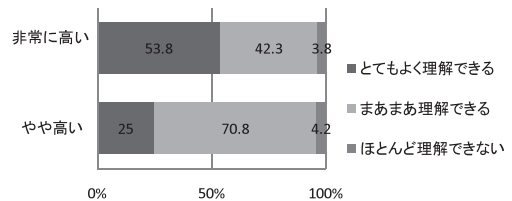


図18 お座り、ハイハイ、立つ

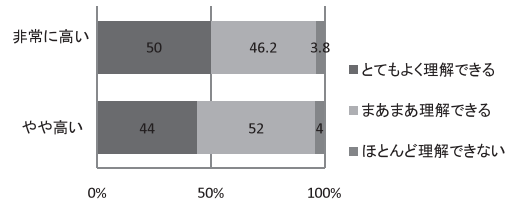


図19 泣き方や表情と親の対応

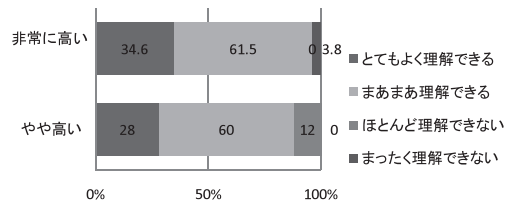


図20 抱き方

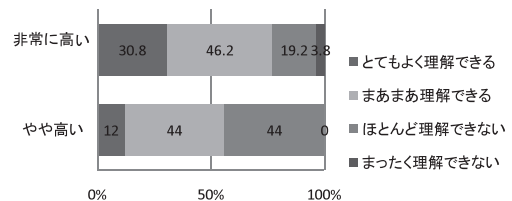


図21 おむつの換え方

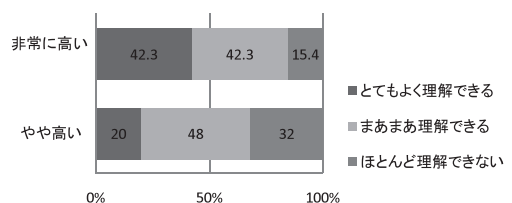


図22 飲み物を与える

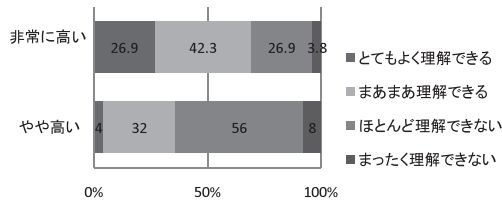


図23 夜泣き、ストレス発散

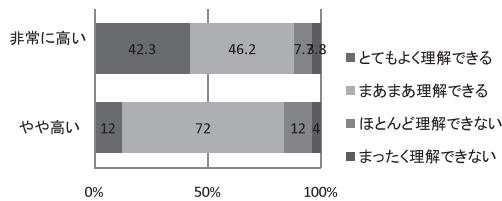


図24 情緒安定効果

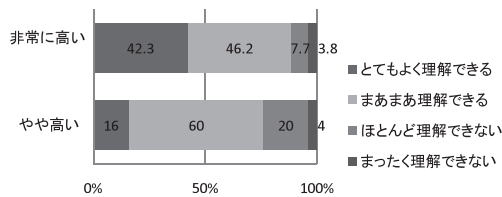


図25 身体的健康の効果

4. まとめ

以上のことからベビーマッサージ参加，託児経験をを通して学生が学んだ乳幼児や母子関係に対する意識，乳幼児に対するかわり方の技術などについて以下のことが明らかに

なった。

- ・ 託児の経験回数が多くなるほど，抱き方などの技術が高まった。
- ・ 託児の経験回数が多くなるほど，乳幼児理解，母子関係理解が高まった。
- ・ 関心度の高い人の方が，子どもや母子関係の理解度は増していくことが分かった。
- ・ 目前で観察できる親子の様子や乳児の様子は特に理解度が高くなった。
- ・ 「夜泣き，ストレス発散」など見ることでできない項目は，理解できないと回答した人が多くなった。

年度を重ね，データを蓄積することにより，学生自身が持っているパーソナリティが学びに影響していることもわかってきた。今後，個々の学生が，どのように学びを獲得していくのかを考察したい。

参考文献

- 1) 三輪聖子，木澤光子，梶浦恭子，馬淵知子「子育て支援の託児・ベビーマッサージを通して得た学生の学び」『岐阜女子大学紀要』41, 2012
- 2) 伊藤葉子「中・高校生の家庭科の保育体験学習の教育的課題に関する検討」『日本家庭科教育学会誌』58(6), 2007